

## 10 わかりやすい授業・環境（授業のユニバーサルデザイン化）

Aさんのために行っていた支援が、他の子どもにもわかりやすいヒントになった。また、Bさんのために行った教室環境の調整によって、他の子どもも落ち着いて学習や活動に集中しやすくなった。このように、ある子どもにとって「必要な支援」は、他の子どもにとっても「あったら便利な支援」と言えます。これを「授業のユニバーサルデザイン化（UD化）」と言います。

三木市では各学校園で行われている授業のユニバーサルデザイン化のアイデアを下の「ユニバーサルデザイン化（UD化）の視点と手立て」を元にデータベース化し公開しています。また、そのアイデアの一部を31ページから紹介しています。本冊子やデータベースを参考に、全ての子どもにとって、「わかる、できる、楽しい授業、楽しい学校園」をつくっていきましょう。

### ユニバーサルデザイン化（UD化）の視点と手立て

UD化の視点	観 点	具体的な手立て
①導入展開の工夫	課題の明確化	カード・板書で課題を提示し、課題を明確にする。
	教材提示	視覚や触覚に訴える教材を提示し、興味関心を高める。
	見通しのもたせ方	学習の流れをホワイトボード等で示す。進度を「今ここカード」で示す。授業の構造化。
	集中の持続	一斉音読やフラッシュカード等により、集中力を高める。
②指示・発問の工夫	具体的な言葉	発達段階に合わせた端的な言葉。
	明確な指示	活動の途中で指示は、活動を止めてから行う。 指示は、明確に短く、はっきり語尾まで言い切る。
	働きかけ	肯定的な言葉で行動を促す。
	モデルの提示	わかりやすい具体例を示す。
③板書の工夫	見やすさ	簡潔な語句や丁寧な文字で書き、線や記号を活用する。
	流れ	学習の流れがわかるように板書する。
	文字の大きさ	最後列から読み取れる文字の大きさを書く。
	色	重要語句や強調したい部分は、色を変えて書く。 色を多用しすぎず、色が示す意味を教職員間で共有する。
④机間指導の工夫	声かけ	具体的な言葉で活動を促す。
	動き方	支援が必要な児童生徒を中心に机間指導をする。
	観察	課題や指示に対して、理解の状況を把握する。
⑤学習展開の工夫	リズム	活動内容のねらいに応じて、緩急をつけた展開をする。
	時間配分	導入・展開・深化・まとめのバランスを考慮する。 タイマーを活用する。具体的な時間を示す。
	個人の活動	板書は、課題と向き合わせ、思考を整理させる。 困った時、教員に支援を求める手立てを準備する。
次頁につづく	ペアワーク	二人で意見を出し合い、お互いの意見に気付かせる。

⑤学習展開の工夫	グループ学習	複数で意見を共有し、意見をまとめさせる。 話し合ったことを学級で共有できるように、発表ボード等を活用する。
	教材の提示	個々の学び方に合った学習ができるよう多様な課題を準備する。
⑥教室・学習環境の工夫	座席	個々のニーズに配慮した座席配置を行う。
	前面掲示	注意集中の妨げとなる掲示を避ける。
	刺激量の調整	カーテンなどで刺激量を調整する。
	整理整頓	誰にも使いやすくわかりやすく整理整頓する。
	物の置き方	教室内のものの置き方を決める。
	場づくり	学習成果を楽しく生み出すような環境を準備する。
	学習ルール	安心して学ぶための約束事を決める。
⑦視覚支援の工夫	提示物の工夫	理解を促したり、興味関心を持たせたりするために、機器や提示物等のねらいや効果を明確にし、使用する。
	具体物の活用	視覚的に捉えたり、操作的・体験的な学習活動を通して、より深い理解を図る。
	ICTの活用	興味関心を高め、学習の定着や理解の深化を図る。
⑧個別の配慮	補助教具の工夫	効果的で操作しやすい教具で理解を深める。
	教材の活用	教育的ニーズに合わせた教材を準備する。 選択できる課題やヒントカード等で参加を促す。
	選べる課題	課題が早く終わった児童生徒には次の課題を用意する。
	個に対する支援	個別の指導の具体的な手立てを準備する。

引用元：特別支援教育の視点をいかした授業のユニバーサルデザイン化ハンドブック  
(平成28年3月発行 兵庫県教育委員会)